

健ガカナビ

第37回



子どもの咳。

2週間以上続く場合は、
一度、受診してみましよう

子どもが風邪から気管支炎を起こすと、咳が2〜3週間続くこともあります。あまり咳が続くと、親としては心配なものです。

咳はそもそも、のどや気管支が刺激を受けた反応であり、痰を体の外に出そうとする生理的な反射です。そのため、特に痰がからんだ「ゴホ、ゴホ」といった湿った咳は、無理に止める必要はありません。お子さんが咳込んで眠れないようであれば、赤ちゃんなら縦抱き、お子さんなら横向き、あるいは体を起こしてあげると、咳をするのに楽な姿勢になります。

親の目から見て、咳き込んで苦しむ様子がいつもと違う場合は、夜中でも受診するようにしましょう。また、咳が2週間以上続く場合や、「ゼーゼー」といった喘鳴を伴う場合も一度受診してみましよう。特に喘鳴を伴う咳は、小児ぜんそくかもしれません。

小児ぜんそくの診断は大変難しく、治療にも時間がかかります。しかし、薬を正しく服用すれば症状をコントロールすることができます。特別な運動制限も必要ありません。また、親の過度な心配は子どもを不安にさせ、さらに症状を悪化させることもあります。小児科医と相談しながら、しっかりと治療を進めていきましょう。

監修 慶應義塾大学医学部小児科学教室

肥沼悟郎



患者さんのために
もっと飲みやすく、
ずっと使いやすく。



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

高田製薬株式会社

〒336-8666 埼玉県さいたま市南区沼影1丁目11-1